

新刊

児童書

おとのさま、まほうつかいになる

(小学校低学年向け)

中川 ひろたか 作 (佼成出版社)

魔法のほうきに乗って飛ぶ魔法使いを見て、魔法のほうきに乗りたくなったおとのさま。乗り方を教えてもらうため、おそろし山の奥にある魔法使いの家を目指しますが…。魔法使いの呪文一覧も掲載。



一般書

文字のきほん

伊達 千代 著 (グラフィック社)

書体とフォントの違い、文字と印刷の歴史、電車の文字、フォントの作られ方、国内の主なフォントメーカー、フォントの入手方法…。「文字」そのものに焦点を当て、写真や説明図とともに平易な言葉で解説する。



一般書

ここまでできる自衛隊

稲葉 義泰 著 (秀和システム)

自衛隊って憲法違反なの?武力の行使と武器の使用の違いは?災害派遣は主たる任務、それとも従たる任務?憲法や国際法、自衛隊に関する法律などについて、具体的な事例をベースに分かりやすく解説する。



一般書

ふつうでない時をふつうに生きる

岸本 葉子 著 (中央公論新社)

突然の外出制限、リモートワーク…慣れない環境にとまどう毎日。でも日常を見直し、自分のペースを発見するチャンスかも?変化に応じて、ぶれない心の持ち方を考えたエッセイ集。



図書室からのお知らせ

▶**休館について** 資料整理のため、2月28日(日)は、図書室をお休みします。

▶**在架予約の開始について** これまで本の予約は貸出中の本のみ可能でした。2月1日(月)より、貸出中の本だけでなく、図書室にある本もインターネットから予約出来るようになりました。詳細は図書室ホームページをご覧ください。

▶**問合せ** 社会教育センター図書室 ☎28・5449

豊山俳句クラブ

青山吉巳 選

北向きの部屋に一人の秋夜長

青山とも子

生垣の樞にも名のありにけり

水野眞弓

夕焼けに負けぬ山辺の冬紅葉

黒澤裕子

鈍色に冬の沈黙つづきををる

高木須磨子

明けやらぬ空に冴え冴え冬の月

山下敬太

糶田をすくとんと暮れてゆく夕日

田村多喜子

小さくも蕪は蕪なり味となり

坪井昭子

夕暮れや冬の匂ひの帰り道

谷崎 琴

吊し柿陽の温もりを残しをる

東海林宗義

峡の宿下駄の焼印時雨来る

杉浦みどり

沖合に滲む漁火能登時雨

岡島 齋

海を背に魚網縋ひし冬帽子

坪井径子

花梨の美めつたに開かぬ裏の木戸

青山吉巳

豊山歌壇

水野笑子 選

頂上にとロープウェイの助け受け雲より高き蔵王に立てり

山田 米

庭の木に満月の光さし及び少し冷えたる空気流れ来

渡辺トヨ子

土手沿ひのすすき刈り取り飾りつけ

橋爪しづ子

十五夜の月に秋の虫の音

中澤芳子

市議会の傍聴の誘ひ受け応じ物見遊山のごとく出かける

荒川昌枝

誕生会親睦会にバス旅行老いの楽しみコロナは奪ふ

一柳千鶴子

紅葉が枯葉色へと変わりゆく淋しさもあり老いゆく身には

小出寿枝

北風の終日荒るる初冬の日つるべ落としの夕べとなりぬ

柴田満枝

次の世は「人間に生れて来るのよ」と我に寄り添ふ愛犬諭す

水野笑子

温泉の湯に浸りつつ語り合ふ孫の成長と老い行く先を

水野笑子

日帰りの恵那峡散策の楽しさよ至福のひとつを兄妹に感謝

水野笑子

今もなほ切り抜きに心寄せにつつおきよりのノートは捨てず

水野笑子

編集後記

去る12月19日に町と姉妹提携地域となった米国ワシントン州グラント郡と初めてオンライン交流会が開催された。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大のため、学生のホームステイが中止となってしまった。アメリカへの渡航は果たせなかったもののオンラインで交流を深めることができたと思う。新型コロナウイルス感染症による様々なものがオンライン化され、仕事も在宅で行うことが増えている。こうした変化を人間関係の希薄化につながると危惧する声がある。確かに顔を合わせることで初めて心が通じ合うということも多い。しかし、今ほど交通の便がよくなかった時代には、遠方の人とは手紙や葉書のやりとりで交流するしかなかった。だからといって関係が希薄になることはなかったし、手紙文学と呼ばれる豊かな感情表現が生まれる素地にもなった。むしろ、いつでも簡単に会いに行ける現代の方が日々忙殺されて、顔を合わせることを先送りしがちではないだろうか。会いたいときに何時でも会えるという贅沢に慣れてしまうと一期一会の精神も失われていくように思える。ちなみに2月2日は夫婦の日である。毎日会う人と素敵な一日を過ごしてほしい。